

第4章

建設業者の取組事例紹介

感動・感謝・貢献の新3Kで地域の安心安全、そして笑顔を作る江口組

株式会社 江口組

会社概要

代表者	代表取締役社長 江口 充	所在地	小松市殿町2-66
資本金	2,400万円	従業員数	36名
直近決算売上高	1,803,178千円	連絡先	TEL 0761-24-1311

新3K (感動・感謝・貢献) で建設業をイメージチェンジ!

建設業は3K(きつい・汚い・危険)の仕事だと言われております。そのイメージが原因となり、建設業を志す若者が激減し、業界を挙げて担い手確保という課題解決に取り組んでおります。確かに現場ではそういう面もありますが、全てがそうではあるとは思いません。建設業という仕事はやりがいがあり、どんな仕事よりも誇りに思える仕事が建設業だと考えております。

私たちは、建設業の仕事は「感動・感謝・貢献」の3Kと考えております。もちろん建設業は大変な仕事で、夏は暑い、冬は寒い、そして危険も潜んでおります。しかし大変な仕事でも、みんなで心を一つにし力を合わせて、困難を克服し工事を完成させ、大きな達成感を得られるからこそ仲間と感動を分かち合えることができます。そして感動の涙を流せるくらいに、とことんやることで、お客様が笑顔になり、感謝の言葉を頂けるのではないかと思います。さらに、私たちの工事が完成し、この地域に笑顔の人が増え、まち全体が元気になり発展につながる地域貢献ができる仕事です。

江口組は建設業を「感動・感謝・貢献」の3Kと掲げ、イメージチェンジを行い担い手確保の取組みを行なっております。



建設業のイメージチェンジ!



仲間と感動を分かち合う

女性が安心して働き、活躍できる環境創りの実践

全社員の3分の1が女性社員という江口組です。10年前はわずか5%未満だったことを考えると、女性社員の割合が大幅に増え、雰囲気もイメージも大きく変わりました。その中で技術者として現場で活躍する女性は3名います。女性が現場で働くことで「現場の雰囲気が変わった!華やかになった!」という評価を頂きました。

女性が増えたことで、当社では女性専用トイレや休憩室を新しく設置したほか、女性技術者が働く現場においては快適トイレや更衣室を設置するようしております。また、「一般社団法人 土木技術者女性の会」の方をお招きしての意見交換会、女性社員での食事会を定期的で開催しております。



現場で活躍する女子社員



女性が働く現場には快適トイレの設置

グループウェア、SNSを活用した働き方改革

働き方改革が叫ばれる今の時代、我々の建設業も「土日の休みの少なさ」「残業の多さ」などの課題があります。この課題が建設業のイメージとして浸透してしまい、建設業で働く若者の減少につながっている傾向があります。以前の建設業界ではそれが当たり前だったかもしれませんが、これからは休みがあり、残業が少ない、働きやすい環境づくりをしていかななくてはなりません。

江口組では、仕事の効率性を上げるためグループウェアを導入・有効活用しているほか、ペーパーレス化の取り組みを行っております。また、社員一人ひとりがスマホを持ち、クラウドやSNSを活用することでコミュニケーションを深め、情報の共有化を図っております。そして、現場においてはICT技術をはじめとした、最新技術の導入に積極的に取り組んでおります。

未来の現場監督の育成

小学生を対象にした「子ども現場見学会」を毎年開催しており、今年で5年目になります。担い手確保という課題への取り組みとして、小さい頃から建設業の仕事、ものづくりに興味を持ってもらおうと工事現場の見学、重機の運転、セメントを使った工作教室を実施しております。

参加した子ども達からは「将来ショベルカーに乗って働きたい」「道路を造ってみたい」などの声があり、将来が楽しみです。



未来の現場監督たち



大人気の子ども現場見学会

『I-Construction』を通じた、担い手確保・育成対策・働き方改革

南建設 株式会社

会社概要

代表者	代表取締役 南 裕基	所在地	羽咋郡志賀町高浜町1の71番地1
資本金	3,000万円	従業員数	55名
直近決算売上高	2,608,000千円	連絡先	TEL 0767-32-0017

会社の来歴、過去の取り組み

南建設(株)は昭和26年12月に設立された総合建設業会社です。道路・河川・港湾工事及び農林土木工事、建築工事並びに志賀原子力発電所建設工事などの工事に携わっております。能登海浜道路や能登縦貫道路などの建設工事、昭和60年着工の志賀原子力発電所1号機、さらに平成11年着工の同2号機の工事に参画しました。原発工事においては、大規模な造成工事の施工が必要となりましたが、自社機械を70台、運転手を50人確保し、大型土工に対応しました。

港湾工事のための船舶や、土質改良工事に使用する土質改良機も保有しているほか、光波測量機やパソコンについては、当時としては早期導入を行いました。

上記のような、機械の導入による作業の効率化や受注機会の拡大、最新機器を使用し効率化を図る社風が、現在にも受け継がれております。



港湾工事作業状況



自走式改良機

近年の取り組み

近年では、平成27年9月にマシンガイダンス0.7mバックホウと、マシンコントロールの7t級ブルドーザーを導入しました。

平成28年度は国土交通省が推進する『I-Construction』への早期対応としてICT建機、3次元データ作成ソフト、点群処理ソフトを導入しました。

平成29年度はレーザースキャナー、CIMコミュニケーションシステムとして3次元CADシステム、デジタル工事写真の黒板情報電子化のためのソフト・機材を導入しました。



VR使用状況

平成30年度は「3次元モデルを利用したCIMコミュニケーションシステム TREND-CORE」、「TREND-CORE VR」でバーチャル空間化に対応しました。

実際に取り組んでみて

当社は30～40歳代の技術者が多いため、『I-Construction』等の新しい取り組みに意欲的にチャレンジしておりますが、30～50歳代の活力ある技術者が20歳代の技術者・運転手を牽引し会社の活力を支えておりますし、60歳代の技術者・運転手の技術・ノウハウを30～50歳代の技術者・運転手に伝承していくことも大事だと考えております。

『I-Construction』については、自社で一括して出来るよう、建設機械やICT機材を揃え、現場で実際に使用し、試行錯誤することで、かなりのノウハウを蓄積できました。そのおかげでICT施工におけるデータ作成や納品の作業時間は当初と比較し削減が図れてきております。

「担い手確保・育成対策」については、平成30年度は、のと里山海道4車線化工事において、従来は熟練工が担当する切土・盛土法面整形作業において30歳代の運転手が、熟練工から教わったノウハウとICT建機を駆使し、無事完成しました。施工効率・出来栄とも、従来より良いものとなりました。

過去4年にわたって新規高卒者を採用しておりますが、意欲的に働ける現場に配置するよう努めているほか、技術者には最新の測量機器などを使用してもらう、運転手については早期の免許取得・講習修了の支援などを行った結果、2年前からは離職者が出ておりません。



ICT建機



ICT活用工事報告会

『I-Construction』への取り組み

今後の方向性

「担い手確保・育成対策」については、前述のとおり、ハード・ソフト両面を充実させ、実績・経験を会社の財産とし、新しい取り組みにチャレンジすることで会社の活力向上を図っておりますが、高齢化による人手不足は、当社にとって深刻なものになっております。新人は熟練工やベテランの技術者とは違い、即戦力としては期待できず、短期的には会社の経営を圧迫する側面もありますが、10数年前の建設業界と比較して、現在は新人を採用・雇用できる環境であることから、粘り強く雇用・教育をしていきたいと考えております。

「働き方改革」については、『I-Construction』の一環で工事の平準化により、現場が一時期に集中することが少なくなったため、特定の技術者に負担がかかり過ぎないように、技術者の現場への配置を複数化・ローテーション化し、働きやすい環境作りを進めております。また、更なるハード・ソフト両面の充実を図り、作業効率の向上・作業時間の削減に繋げ、労働環境の改善を図りたいと考えております。

当社は、10年後、20年後の地域社会を守るため、これからも時代に沿った会社づくりを通じ、担い手確保・育成対策・働き方改革を、地道に着実に、進めていきたいと考えております。

建設業の未来に向けた担い手確保と育成

株式会社 豊蔵組

会社概要

代表者	代表取締役 豊蔵 享一	所在地	金沢市長土堀3丁目13番8号
資本金	9,000万円	従業員数	90名
直近決算売上高	8,032,161千円	連絡先	TEL 076-263-2231

「なぜ、建設業？」新入社員の採用事情

「なぜ、建設業界に入ってきたのか？」

現在の超売り手市場の中で、建設業に入りたいという学生を探すのは相当な労力を要します。このような状況の中で建設業界を選択した理由は、一人ひとり違うと思います。しかし、共通しているのは小さい頃に、例えば学校の校舎の新築・増改築の現場やビルの建設現場など、身近な場所で物が日々出来上がっていく様子を間近に見て、「自分も大きくなったらこんな仕事がしてみたい」と思ったからではないでしょうか。

大卒の3割、高卒の4割が3年以内に離職すると言われておりますが、このような思いを持って建設業界を選んだ新入社員という宝物の期待を裏切らず、長く働いてもらうため、当社では様々な取り組みを行っております。



ICT技術の活用

建設業の「おもしろさ」を伝える

「建設業」と聞けば、「きつい」「汚い」「危険」の3Kが連想されます。この3Kに「労働時間が他業種に比べ長い」、「所得が低い」が加わり、就活生やその保護者から敬遠される業種であると言われております。しかし、高校生向けの企業ガイダンスや高専生向けの技術振興説明会などに参加している学生との質疑応答の中で、建設業の「おもしろさ」が伝わっていないのではないかと疑問に思うことがあります。

そのため、当社では学生向け説明会において、建築現場での基礎工事から完成までの流れを、写真・映像を使い時系列で紹介したり、土木現場でのICT工事の様態を、ドローンを使った空中からの映像を使って説明を行うなど、実際の仕事をより分かりやすい形で説明を行っております。そうすることで、建設業に対する漠然としたイメージが、より鮮明なものに変わっていくのではないかと考えておりますが、『建設業の「おもしろさ」を学生に発信し、理解してもらう』、そのための努力がさらに必要ではないかと感じております。

また、インターンシップや職業体験の際、学生と年齢の近い社員とのコミュニケーションの機会を多く作り、現場での実地体験はもとより、社員の建設業に対する率直な感想、やりがい、苦労話、おもしろさを伝えるよう工夫しております。このように、建設業が持っている魅力を参加した学生に理解してもらい、さらにその保護者や他の学生にも伝えてもらうことで、建設業への理解者を増やすことにも努めております。

働き方改革への取り組みと若手の育成

政府主導で「働き方改革」が叫ばれておりますが、当社でも写真ソフトや3Dキャドソフトに加え、工事現場においてはICT技術を導入するなど、生産性向上に向けた投資を毎年行っております。ICT技術の活用は、従来のベテラン社員の勘と経験に頼っていた部分を、経験の少ない若手社員でも比較的短期間でできるようになるため、若手の育成にはなくてはならないものとなっていると同時に、生産性の向上にも大きく寄与しております。

また、昨年にはグループウェアを導入し、社員のスケジュールの「見える化」、ワークフローを活用した決裁時間の短縮化など、間接部門においても時間短縮と生産性向上に努めております。さらに今年からは、ペーパーレス化にも取り組んでおり、生産性向上に向けたスピードを上げております。

女性社員の育成と活躍

「ガテン系」という言葉から想像できるように、建設業は男の職場というイメージが非常に強い業界です。実際に男性主体の業界としてこれまでは発展を遂げてきました。ただ最近では、女性の活躍の場が建設業界にも広がり、現場にも女性の姿を目にすることが多くなりました。

当社でも4名の女性社員が現場技術者として勤務しております。女性用の更衣室・トイレといったハード面から、産休・育児休暇・時間短縮勤務といったソフト面の整備を行い、女性の活躍をサポートしております。建築2名、土木2名の女性社員は男性社員と同じ教育を受け、今では現場代理人として男性社員に指示を出すまでになっております。当社では今後も女性社員の進出を支援し、男性社員とは違った目線で業務の見直しを進め、今までの「当たり前」という慣例を捨て、ワークライフバランスを重視した経営に舵を切っていきたいと考えております。



新入社員研修



社員旅行



アドプト活動



金沢城リレーマラソンへ参加



金沢市内散策

社員のイベント参加